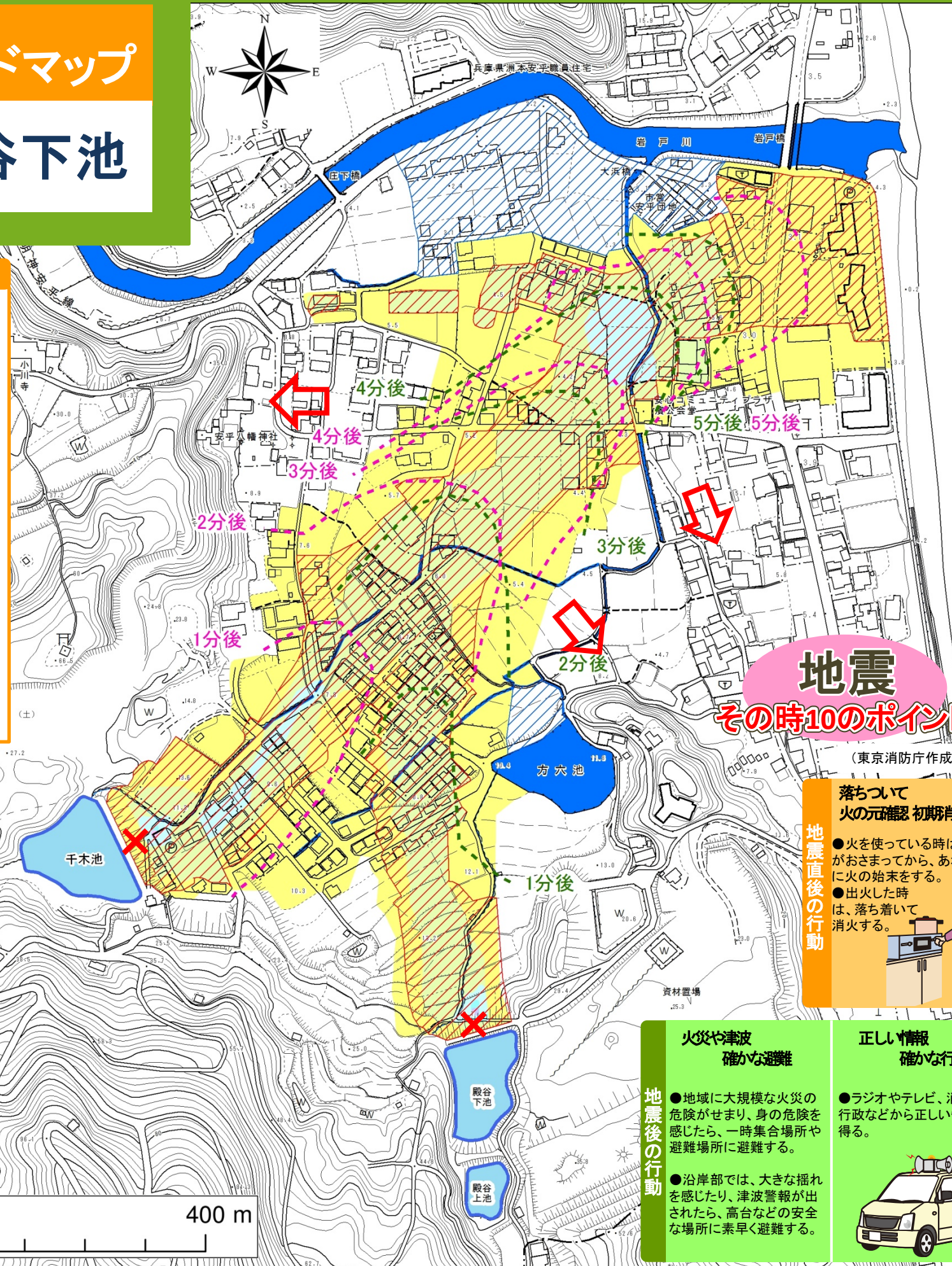


ため池ハザードマップ

千木池・殿谷下池

凡例

- 到達時間
- 歩行困難区域
- 注意の必要な範囲
- 0.5m未満
- 0.5～1.0m
- 1.0～2.0m
- 2.0～3.0m
- 3.0～4.0m
- 4.0～5.0m
- 5.0m以上
- 想定した破堤地点
- 避難方向



この地図は、農業用ため池の「千木池」「殿谷下池」が、地震などによって大きな被害を受け、ため池の堤防が決壊し、洪水が発生した場合を想定し、それぞれのはん濫水が到達する可能性のある区域と、予想される浸水の深さを1枚に表示したものです。(2つのため池が同時に決壊した計算結果ではありません)

なお「殿谷下池」のはん濫計算には「殿谷上池」の貯水量も考慮しています。

また「注意の必要な範囲」は地盤が低く、ため池や河川の状態によっては注意が必要となる範囲です。

実際のはん濫水の影響のある範囲は、ため池の貯水状況、堤体の被害の程度、周辺の土地利用状況等により、これと異なる可能性もありますが、地震が発生したら「まずは安全な場所に逃げる」とが何よりも大切です。

地域の皆さんでこの地図をご活用いただき、地震時の安全確保に努めてください。

地震 その時10のポイント

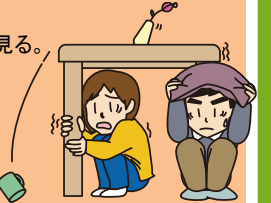
(東京消防庁作成)

地震だ！ まず身の安全

- 揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた時は、身の安全を最優先に行動する。
- 丈夫なテーブルの下や、物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れが納まるまで様子を見る。

[高層階(概ね10階以上)での注意点]

- 高層階では、揺れが数分続くことがある。
- 大きくゆっくりとした揺れにより、家具が転倒・落下する危険に加え、大きく移動する危険がある。



落ちついて 火の元確認 初期消火

- 火を使っている時は、揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をする。
- 出火した時は、落ち着いて消火する。



あわてた行動 けがのもと

- 屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。



窓や戸を開け 出口を確保

- 揺れがおさまった時に、避難ができるよう出口を確保する。



門や塀は 近寄らない

- 屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らない。



火災や津波 確かな避難

- 地域に大規模な火災の危険がせまり、身の危険を感じたら、一時集合場所や避難場所に避難する。
- 沿岸部では、大きな揺れを感じたり、津波警報が出されたら、高台などの安全な場所に素早く避難する。



正しい情報 確かな行動

- ラジオやテレビ、消防署、行政などから正しい情報を得る。

確かめ合おう 我が家の安全隣の安否

- 我が家の安全を確認後、近隣の安否を確認する。



協力しあって 救出・救護

- 倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。



避難の前に 安全確認 電気・ガス

- 避難が必要な時には、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締めて避難する。

